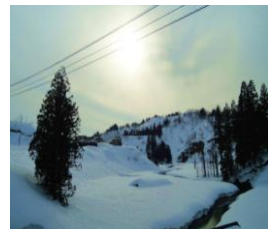


発行：
山古志木籠ふるさと会
会長：松井 治二
発行年月日：
平成23年 3月10日



木籠ふるさと便り

2011年木籠は元気です ～今年もみなさんの故郷でありますように～

ごあいさつ

昨年5月1日にふるさと会を立ち上げてちょうど十月十日^{とつきとおか}ほどの月日が経ちました。お母さんのお腹から、そろそろ新しい命が外の世界へ羽ばたくとき。2011年、ふるさと会もそんな時期を迎えています。木籠で生まれた小さな種が、しっかりこの地に根をはって、今や日本全国、世界へもどんどん広がってきています。

松井区長さんはこう言います。「全国各地にいるふるさと会の皆さんは木籠住民と同じなんです。この小さな木籠集落が、山古志にとどまらず、日本中へ世界へどんどん広がっているのだと思っています。」

いつでも木籠に来てください。いつでも木籠とつながっててください。今年もどうぞ木籠を自分のふるさとと思って、一緒に楽しみ、一緒に語らいましょう。この穏やかな山里の暮らしの中で大きく深呼吸して、心も体もみんなで元気になりましょう！



家内安全・無病息災・木籠万歳

2011年1月9日 賽の神にて

賽の神 ～帰村から4度目を迎えた～

今年もまた、この日を迎えることができました。帰村から4度目の賽の神。みなで力を合わせ作った約6メートルの賽の神は、パチパチと音をたて、木籠の空高く炎をあげました。

今年もここ木籠の地で、元気に暮らしていけますように。一日一日地に足つけて、しっかり暮らしていけますように。雪の降りしきる空に、勢いよく登っていく煙と炎。はるか昔からこの地で行われてきた、年初めの誓いと願い。

帰村後、再起を願って復活させた賽の神には、年々集う人々が増え、活気あふれる行事となりました。ふるまわれる甘酒やお餅に体を温め、火で餅やスルメをあぶって噛みしめる。苦くて顔をしかめると“これが体にいい”と言われ、唇を真っ黒にして噛んでみる。薫のとてもいい匂いがした。残り火も小さくなると、ぬれたお尻を並べて温める人達に皆大笑い。笑いにお尻で答える人達。今年も木籠に笑顔があふれました。

今年も木籠に笑顔があふれました。



2008年1月13日
帰村の再起を願いおこなった 賽の神

↓ 頂上へ登り全体の調整

【年々仲間が増え、
参加人数は三倍にもなりました】

賽の神ができるまで

↓ ひたすら萱束運び。賽の神の胴体となる

村の男衆編



←木を使った巧みな骨組み作り



↑ 萱で胴体を作っていく
火が良く回るよう空洞を作って



去年お世話になった、しめなわやお守り、七夕飾りと一緒に燃やす

完成！



それぞれの力が結集し見事完成！
年々出来がよくなっています。
ちょっと点火が早かったかな(^v^);

初心者編



↓ ひたすら藁を編む。これで萱の上から賽の神の表面を覆う



↓ おんべ(神様へのお飾り)作り



木籠の蕎麦打ち道場

～今年の蕎麦は良い出来でした～

12月19日昨年最後のふるさと会行事、蕎麦打ちを行いました。暑いさなかに諦めず撒いた蕎麦が実り、一足早い手作り年越しそばを頂きました。ふるさと会の蕎麦職人も年々腕を上げ、数も増え、今年のお蕎麦は出来も上々。蕎麦がちょっと苦手な区長さんをもうならせる出来栄です。

集会所と郷見庵の2か所で作って、郷見庵にいらしたお客様には食べていただき、大変喜んでいただきました。

細い蕎麦、太い蕎麦、長さもいろいろですが、自分でつくった蕎麦には、何ともいえない味わいがあります。お母さん方が揚げてくださった様々な天ぷらと一緒にほおばって、とっても美味しく頂きました。

「いただきま〜す (^v^)/」



↑とにかくこねます。手のはらを使って力を込めて、よいしょ、よいしょ〜



↑今回デビューのステイヴさん。小中学校の英語の先生



↑ふるさと会蕎麦職人、金井さん 四角く均一に伸ばすのが難しい



↑しわ一つないまん丸に生地をまとめるのがコツ



↑トント〜ン。蕎麦切りもとってもリズミカル♪

冬の楽しみ どぶろく作り ～ぷつぷつ・・・発酵の音に耳を澄まして～

2月13日、上田勇五郎さんの手ほどきをうけて、毎年恒例のどぶろく作りを行いました。仕込み具合や、熟成中の加減で、毎年微妙に出来栄が違います。去年は残念ながらちよつと美味いかなかったため、今年の仕込みはちよつと慎重に。勇五郎さんが見守る中、御飯が炊けて、作業開始。手際良く御飯の粗熱をとり、麴とイースト、水を加えてひと段落。

郷見庵の2階で休憩しながらしばらく様子を見ることに。皆でお昼をたべました。お餅に漬物、煮物と楽しくおいしく頂きました。お茶飲み話にくつろいでいると、そろそろ発酵を始めた様子。各々が持ち寄った瓶を並べて慎重に分けていきました。ほんとはもうちよつと欲しいけど、がまんがまん。自分の瓶を大切に持ち帰ります。今日から毎日かき混ぜながら、発酵が進むのを待つのです。静まり返った夜には、プチプチとどぶろくの音が聞こえます。1週間経つころには、白く濁った瓶をかき混ぜると、お酒のいい香りがしてきます。ちょうど飲み頃のどぶろくです。今年の出来栄をみな楽しみに持ち帰りました。



↑どぶろく作りを勇五郎さんに教わる



↑プツプツ発酵をはじめました
←ご飯が炊けた。
麴とイーストを入れて仕込む



↑みんなに均等に分けよう
私にちよつとおまけて〜
勇五郎さんのレシピ →



我が家ではスッキリ辛口ができました。

今日から一週間、どぶろくのとなりで寝てみよう。プチプチとおいしいお酒になる音を聴きながら。



「昔は柿やリンゴでどぶろくの素を作ってたね、それからヨーグルトもちよつとね。お茶碗のご飯にまぜて造ったもんだよ」(今はイーストや麴をまぜる)

「冬はどぶろくにちようどいい季節だねえ」

毎年どのくらい造るんですか？

「何回も。なくなったらまた造り、なくなったらまた造ってね」

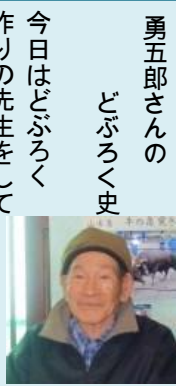
これはこれはおそれいりました。ひようひようと答える勇五郎さんが、心の中でペロツと舌を出した気がした。となりにいる奥さんの久江さんをちよつと気にしながら。

「愛知の酒屋に出稼ぎに行ったこともあってねえ」その後、農業雑誌で見つけた「どぶろくの作り方」を試してみたらうまくいった、どぶろくの魅力にはまっちゃった。

「今日はどぶろく作りの先生をしてくださった勇五郎さん。ふるさと会の副会長さんです。」

実はかれこれ二十年、冬の楽しみに自作のどぶろくを造っているのだという。

勇五郎さんのどぶろく史



今年は どうする？

山古志 木籠ふるさと会

どぶろく作りも一段落。郷見庵でお茶を飲みながら、「ちょっと今年のふるさと会は何をするかね」とみんなでアイディアを出し合いました。

「郷見庵のわきに露天風呂を作ろう！」と松井区長さんがやる気です。田植え、稲刈り、道普請。雪降りしきり中の賽の神。夏は農作業の汗を流し、冬は美しい雪景色を眺めて体の芯から温まる。こんな素敵なことってないよなあ～。さすが区長さん。

さてじゃあどうやってつくる？それは私たちに任された。石井さん、斉藤さん出番ですよ～。何はともあれ夢は膨らみ大いに盛り上がりました。混浴にしちゃう？「見学料をいただきま～す」と女性陣。「いやいや見物してやるんだからこっちがもらわないとなあ」「じゃあ私たち見物させてもらいましょうか」わっはっは～（笑）お風呂の話ってどうしてこんなに楽しいんでしょう。話しているとみんな心もはだかになっていくみたいです。

「古代米で田んぼアートをやってみようや」石井さんに中村さん。「いろんなところでやってるけど、どうやるの？」「まあ杭でも立てて植えるとこさえ分ければ何とかなるよ」「難しいやつ作るよりも、この辺じゃまだやってないから“木籠が一番にやる”ってのが意味があるんじゃないかな」どこよりも先頭きってハリキルふるさと会です。

「どじょうでも飼って見たら？」と口火を切ったのは三条組です。「ドジョウを油でからっと揚げたら最高！お酒に合うわよ」「ドジョウとゴボウと卵で柳川だものね」「お汁に入れたりしてさ、子供の頃からよく食べたよ～」。一方で、「ドジョウって食べてた！？」と木籠の奥様方はきょとんとした様子。どうもそれほど木籠では頻繁に食べられたものではないらしい。「食べようが食べまいが、ドジョウすくいってのもあるぞ」「どじょうの手づかみも楽しそうじゃないか？」田んぼもある、川もある、育てる環境ならそろっている。結構現実味がありそうだ。

「蛍もまた見に行こう」私たちが蛍が戻る環境を作ろうって話もあったけど・・・「蛍は自然にもどってくる。大丈夫だよ」「去年もかなり見られたんだよ」「クリスマスツリーみたいできれいだった」それじゃあ今年からは調査じゃなくて、毎年蛍がどれくらい戻ってくるか様子を見に行こうか。

その他にも、「しめ縄作り」に「彼岸団子」、「そば打ち二回」などなど、郷見庵でまああるくなって、今日はやけにみんないつまでも話にはながさきました。今年もふるさと会は大忙しになりそうです。



今後の予定

※4月はまだ雪があるため、5月頃からの予定です

5月上旬 道普請、雪解けと緑の芽吹く山里散策

5月中旬 田植え、花植え

5月～6月 畑仕事

6月中旬 蛍観察

詳細は事務局か区長さんにお問い合わせください

今年も豪雪でした

こればかりは
大変だよ～

去年に引き続く豪雪。地震後、屋根は落下式にしてみましたものの「落ちた雪が三階まで積もったよ」「家は二階の窓が半分埋まってるてえ」「夜中にザザーッザザーッと雪の落ちる音がたえないと不安だよ」と、雪とのお付き合いはなかなかの苦労だ。「今朝も大変だったねえ」と、雪掘り仕事へのねぎらいがあいさつがわりになりになる。

除雪車のおかげで主要道路はきれいに除雪されているものの、両脇に迫る雪の壁を見上げて圧倒される。「積雪を測る4Mのポールが埋まってしまったよ」今年の木籠の積雪は測定不能ということか・・・。朝何時から雪かきするんですか？「5時頃だね～。1月にドンと降った時は5時じゃ間に合わなかった。4時半だったね」「ブル(除雪車)の音が聞こえるとすっ飛んで起きていったもんね」各家々では玄関前の雪を毎朝除雪車の通る道まで出して持って行ってもらう。そうしないと家が埋まってしまうのだ。木籠の人たちは生活するために強くなる。たくましくならなければ暮らせない。ふるさと会も来冬は雪掘りを手伝ってはどうか。足手まといになるかもしれないが・・・。

後日、あらためて木籠でも山の上にある畔上さん宅におじゃました。道路から屋根だけ見えるお宅をご夫婦はこの冬毎日掘り出した。街場では見慣れない鉄のスノーダンプ。これでないとも木籠の雪にはかなわないのだ。リイさんはたくましかった！

来てみてビックリ！少しだけ屋根が・・・

↓畔上さん宅を道路から見上げる

この冬は

↓二人で家を掘り出す毎日だった

入り口だけ掘り起こした小屋
↓かなりの急傾斜になっている

鉄のスノーダンプ
かなり重いが
リイさんは毎日
↓これを使う

家の中は二人であつたか
↓リイさんと一緒に喜一さんもニコリ



【神社も鳥居も雪にすっぽり埋まっています】

新しい仲間が増えました ～よろしくおねがいします～

千葉県で社会福祉活動を行う「NPO法人いぶき」さんが、ふるさと会の仲間になってくださいました。ふるさと会の活動に共感をいただき、理事長の菅谷様からお手紙をいただきました。

平成十六年の新潟県中越大地震では甚大な被害を被った山古志木龍集落の皆様は、不境不屈の精神をもって、自らは粉骨砕身、広く外部にも働きかけを行い、ふもと集落の復興を果たされました。そして、平成二十年から二年間をかけ「人々の絆を大切に、みんなが集い、笑顔あふれることも集落をつくらう」を合い言葉に、復興デザインの実現に動かし、その拠点ともなるべき「新郷見庵」も落成され、ふるさと会の活動が満帆の風を受け走り出されましたことを喜び申し上げます。「平成二三年こどもカレンダー」から、木龍集落の皆様の晴れやかなお尊顔を拝見でき嬉しく思います。

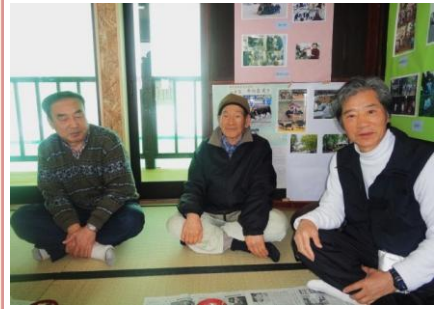
私は、地域の福祉に少しでも貢献できればと願い、若い頃から福祉活動にたずさわってまいりました。そして、十年前には知的障害者を有する人達のための生活ホームを立ち上げ、五年前に非営利活動法人「NPO いぶき」を設立しました。

NPO法人いぶきは「福祉の原点は、地域とともに生きること」を信念に、知的障害者の支援を主に、社会福祉施設や老人ホームの慰問、里山づくりなど、様々な活動を行っております。正に、山古志木龍ふるさと会の皆様の志は、いぶきの目指すところでもあり、皆様を目標に活動すべく決意を新たにしております。

法人名「いぶき」はボランティア活動を通して親交を深めていた、だきました故三波春夫先生の命名であり、私達の山里にある二つの池では山古志の鯉を飼育しております。

このようなことから、私どもNPO法人いぶきは、貴山古志木龍ふるさと会と親交を深め、お互いに協力的な関係を築き地域振興寄与して参りたいと願っています。NPO法人いぶき 菅谷委佐雄

勇五郎さん(中央)と一緒に



大竹さん・東京(左)と小川さん・横浜(右)

この豪雪の中、「自分たちに雪かきか何かお手伝いできることがないか」と思いましてね。思い切って松井区長さんのお宅にお電話させてもらったんです」と小川さん。大竹さんと二人でふるさと会の新しい仲間になってくださいました。

どぶろく造りの前日、大雪の中はるばる山古志に来て木籠の雪かきを手伝い、あまやち会館に宿泊。翌日一緒にどぶろく造りをしたり、お茶のみ話で交流を深めました。春にも是非来てくださいね。

山古志木龍ふるさと会 募集



[木龍の御神木 夫婦けやき]

山古志・木龍地域の伝統、文化、暮らしを継承し、地域の振興と発展に寄与することを目的とします。

集落活動や農作業・山仕事を通して共に働くことの素晴らしさを実感し、豊かな自然の恵みを楽しむ元気な村づくり、「千年続く日本の故郷」づくりをめざします！

遠くにいても、近くにいても、山里の暮らしを感じ、木龍の応援団になって一緒に楽しみませんか



「日本の故郷 地震で沈んだ村 皆の力でここによみがえる 山古志木龍」

- 特典： (1)「会員証」の交付
(2)「山古志木龍ふるさと便り」毎号郵送
(3)こどもカレンダーをお送りします。

年会費：(個人)年額 2,000 円、(団体)年額 10,000 円 (何名様でもOK！)

お申し込み方法：下記連絡先のどちらかに入会する旨をお知らせください

■山古志 木龍集落 区長 松井治二

(FAX/電話) 0258-59-2180

■山古志木龍ふるさと会 事務局 担当：石井秀次

(Eメール) cid85830@syd.odn.ne.jp

入金方法：郵便振替又は、現金申し込みになります。

郵便振替方法：現金又は、郵便貯金口座から下記口座へのお振替となります。

(現金の場合) 郵便局窓口で「電信払込み請求書・電信振替請求書」にご記入をお願いします。

※その際「お受取先口座番号」の『CD/再発行』欄は無記入で結構です。

(ゆうちょ銀行の口座をお持ちの場合) 郵便局のATMからお取り扱いできます。

振替口座：ゆうちょ銀行 記号：11220 番号：25565141

口座名義人 山古志木龍ふるさと会(ヤマコシコゴモフルサトカイ)

現在会員の方も4月から継続の場合、上記いずれかの方法で会費を納入ください